

昔・神と人が分たれる以前——少年がひとり生いのちに燃えた!!

ネオヒーロイック・ファンタジア

ARION

アキバ

安彦良和監督作品

'86年3月15日(土)全国東宝洋画系ロードショー

伊勢丹前・シネタウン
新宿スカラ座 (351)
3127



197041-202

「風の谷のナウシカ」を陵駕する、感動の巨篇、ついに映画化!!

振りかざせ!! 愛の剣を

ギリシャ神話が
今甦える——
《エポックメイキング
ファンタジー》

アリオン世界の超能力

- 黒の獅子王は、軍船の火事に雨を降らせ消す。
- ゼウスは、ポセイドンの軍船に雷を呼び寄せ落とす。
- レスフィーナは、攻撃的な気に対して爆発的な念を発す。
- エリーヌスは幻術で、ショック死させる。
- アポロンは、精神力をエネルギー化する秘力をもつ。
- リュカオーン王は時空移動できる。



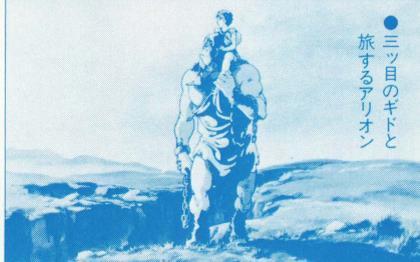
● レスフィーナをめぐる壮絶に闘うアリオンとアポロン



● ミツ目のギドを敵と思い闘いを挑むアリオン



● 正義の剣のみで闘うアリオン



● ミツ目のギドと旅するアリオン



● 捕われのアリオンを看取るレスフィーナ



● ティターン一族の真の敵アポロンに立ち向うアリオン



197041-202

● 解説
去年、日本映画界に輝やかしい金字塔を築いた「風の谷のナウシカ」。アニメ界に新風を巻き起こした「ナウシカ」が三番バッターとすれば、実力派のクリーンナップ四番バッターが「アリオン」だ。

ギリシャ神話の新鮮なテーマを背景に描く壮大なファンタジーロマン「アリオン」は、アニメ映画に於ける大きなエポックメイキング作品であり、「ナウシカ」の感動と動員を完全に陵駕出来る劇場用アニメーション巨篇と早くも期待されている。

物語は、神と人が分たれる以前のエーゲ海トラキアを舞台に、神々の争いに巻き込まれて苛酷な運命に弄ばれながらも、特別な能力を持たない普通の人間の少年が、人間の感情や努力によって自らの逆境や運命を切り拓いていく成長過程を、大人ではなく、少年の視点でみずみずしく描いた感動の巨篇です。

輝やく少年をテーマに描き続けてき、「機動戦士ガンダム」(制作 監督 富野 義朗)、「クラッシュヤージョウ」(監督 富野 義朗)で一躍少年少女の憧がれの作家・安彦良和が集大成として挑む意欲作。映画から「人形嫌い」「マン」の田中晶子を脚本に迎え、構成には「火星先史」「天界の狂戦士」のSF作家・川又千秋、キャラクターデザイナー協力に「日出処の天子」のマンガ家・山岸涼子ら異色の逸材が参加も興味深い作品です。

● 物語
神と人々が分たれる以前、異能の種族ティターン一族がバルカン半島を支配していた。トラキアの荒野にたたずむ一軒家に、少年アリオンは盲目の母デメテルと暮らしていたが、ある時、この地を訪れた伯父のハデスに騙され、冥府の世界へと連れ去られてしまう。闇の洞窟で捕われの身となったアリオンに、ハデスは怪物をけしげ、その見事な戦いぶりから、少年がティターンの血族であることを確信した。ハデスはアリオンに血族の呪われた因果を語った。父王クロノスの死後、ティターン王家の三兄弟は、支配権を三人で分割。つまり、長男・ハデスは地底の王、次男・ポセイドンは海の王、三男・ゼウスは地上の王の地位を獲得したのである。そして、アリオンの母は呪いが原因で盲目となり、その源はアリオンの父でありながら、無情にも彼と母を捨て去ったポセイドンと、オリンポスの城で権威をふるうゼウスなのだ。ハデスは教えた。アリオンは母を呪いから救うべく戦いを決意し、旅立つのだった。従者は、怪力の獣人ギドと、すばしっこい少年セネカ。

だが、道中、ゼウスの軍隊に急襲を受ける。再び捕われの身となった彼は食事を運んで来る口のきけない少女レスフィーナと心が通じた。あわや処刑となる寸前に彼の戒めを解き逃がしたのはそのレスフィーナであった。

- 登場キャラクター(声優)
アリオン……………中原 茂
レスフィーナ……………高橋美紀
セネカ……………田中真弓
アポロン……………鈴置洋孝
アテナ……………勝生真沙子
ハデス……………大塚周夫
ポセイドン……………小林清志
ゼウス……………大久保正信
リュカオーン……………永井一郎
黒の獅子王……………田中秀幸
デメテル……………武藤礼子
- スタッフ
原作……………安彦良和
原案……………(徳間書店リュウゾウ)
製作……………徳間康快
……………磯邊律男
……………伊藤昌典
……………春名和雄
構成……………川又千秋
脚本……………田中晶子
……………安彦良和
……………山岸涼子
……………岸野理江
……………岸野理江
……………久石 譲
美術……………金子英俊
……………千葉耕市
音響……………濱津 守
演出……………川宏徳
……………徳間書店・博報堂・丸紅・日本サンライズ・提携作品
……………配給・東宝(株)

東宝